

CROSS SECTIONS

京都国立近代美術館研究論集第四号を刊行いたします。本誌発行の趣旨をあらためて記せば、それは「京都国立近代美術館の」研究員を中心に進められている平素の研究・教育活動、館が開催したシンポジウム、講演会、館の進める国際交流等々の活動の成果を報告し、これによって今日の芸術現象を含む文化の諸断面に光を当て、さらなる議論のきっかけにすること」にあります。いうまでもなく美術館活動の大きな柱は、「展示・普及・作品収集」活動に集約されるといつて過言ではありません。そしてこれらの活動から生まれる様々な「活動の成果」について、「文化の諸断面に光を当て」ながら、どのような「切り口」でその成果を広く発信することができるのかという具体的な事例発表の場を、本研究誌は担っています。

この「切り口」の提示こそ、本誌のタイトル CROSS SECTIONS が意味するところにほかならないわけで（本研究論集第一号の岩城見一・前館長による巻頭あいさつを参照）、すでに本研究論集も四号を数え、こうした「切り口」の実態を毎号欠かさず発信できるまでにいたっているものと自負してもおります。一般に美術館が発行する研究論集は、「論文」と「研究ノート」、さらには「調査報告」などで占められている場合が多いようですが、本研究論集もすでに三号発行し、「特集」や「キュレトリアル・スタディズ」、「エデュケーション・スタディズ」など、シンポジウムや展覧会と連動した当館独自の企画が反映された研究論集としての性格も鮮明に打ち出せるようになって参りました。

こうした事柄をふまえ、本号ではまず、当館コレクションについてより深い考察が加えられたふたつの「論文」を巻頭に掲げました。ひとつは、これまでにも他館からの出品依頼の機会も多いマルセル・デュシャンのレディメイド《泉》

VOL.4